

102-264

問題文

前問の遺伝子診断の結果、酵素活性の低下を伴う遺伝子型であることが判明した。この患者の治療上、注意すべき内容として最も適切なのはどれか。1つ選べ。

1. ベバシズマブの薬効減弱
2. ベバシズマブの副作用発現
3. イリノテカンの薬効減弱
4. イリノテカンの副作用発現
5. フルオロウラシルの薬効減弱
6. フルオロウラシルの副作用発現

解答

問264 : 2, 4問265 : 1, 3問266 : 5問267 : 4

解説

問264

大腸がんの標準的レジメンの1つである FOLFIRI+BV です。

フルオロウラシルは、フッ化ピリミジン系代謝拮抗薬です。DNA 複製時に取り込まれ、分裂を抑制します。

イリノテカン、トポイソメラーゼ阻害薬です。

レボホリナートはフルオロウラシルの効果を増強させます。

ベバシズマブ（アバスタ）は、血管新生阻害薬です。VEGF に対するモノクローナル抗体です。VEGF が、受容体に結合するのを阻害します。

選択肢 1 ですが

ベバシズマブが結合するのは「VEGF」です。VEGF「受容体」に結合するわけではありません。よって、選択肢 1 は誤りです。

選択肢 2 は、正しい記述です。

イリノテカンの作用機序として適切です。

選択肢 3 ですが

アルキル化剤は、本問のレジメンには含まれていません。よって、選択肢 3 は誤りです。

選択肢 4 は、正しい記述です。

レボホリナートの記述として適切です。

以上より、問264 の正解は 2,4 です。

問265

問265～267 をまとめて解説します。

問266

問265～267 をまとめて解説します。

問267

イリノテカンの副作用として「重篤な下痢」があります。代謝酵素が「UGT」です。UGT1A1の検査をすることで「副作用回避」を図ります。

また、ベバシズマブで「高血圧」が注意すべき副作用です。※細かい知識で、国試には不要だがNO 合成経路

が関係する。

以上より、問265 の正解は 1,3 です。

問266 の正解は 5 です。

問267 の正解は 4 です。